



高校野球のマナーとルールを学ぼう (第61回)



一般財団法人兵庫県高等学校野球連盟

グラウンドでの試合を振り返り、高校野球の大切なマナーとルールを学びましょう。
あなたの「なぜ? どうして?」にわかりやすくお答えします。

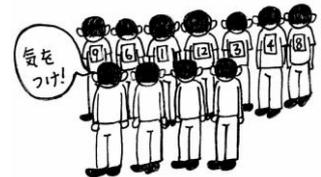
マナー編 試合前の校歌斉唱

公式戦で勝ちチームが本塁を中心にスコアボードに正対し、校旗掲揚に合わせ校歌を斉唱している際に、しばしば選手の背後に並ぶ審判員が「気を付け」と号令をかけて姿勢を注意している光景を目にしますが…。

筆者の現役時は、1回戦から球場が使用できるのは選手権大会だけでした。校歌斉唱も選手権大会でしかないため、大会前の練習終了時には全員が本塁上に整列し、校歌はもとより、その姿勢も指導を受けていました。

「気を付け」は校歌斉唱にふさわしい姿勢である一方、敗者に対する礼儀(マナー)であると言えないでしょうか。歌いたくても歌えなかった敗者に対する思いやりとも言えます。もちろん勝者に対する賞賛、尊敬の意から、負けチームのメンバーも「気を付け」の姿勢は不可欠です。具体的に「気を付け」の姿勢を紹介します。試合開始及び終了時の挨拶時と同様ですので、今一度、自分の姿勢をチェックしてみてください。

1. あごを引いて自然体で立つ。
2. 両手は体の横につけて伸ばし、両足のかかととはくっつける。(つま先はやや開く)
3. 背筋を伸ばして胸をはる。



ルール編 タイブレーク制の導入

いよいよ2016年春季大会から硬式部門においても「タイブレーク制」が導入されますので、兵庫県高等学校野球連盟の「タイブレーク規程」(春季大会用)を紹介します。

- (1) 12回終了時に同点の場合、13回からタイブレークを開始する。
- (2) 無死、走者一・二塁の状態から行う。
- (3) チームは、タイブレーク初回の攻撃を開始するにあたり、打順を選択することができる。(次回以降は前インニング終了後からの継続打順)
 - ① 両チームは10回終了時に配布する「選択打順申告用紙」に、タイブレーク初回となるとき「先頭打者氏名」「一塁走者氏名」「二塁走者氏名」を記入する。
 - ② この場合の2人の走者は、前項の先頭打者の前のものが一塁走者、一塁走者の前の打順のものが二塁走者となる。(投手、捕手も走者となる)
- (4) 後攻のチームがタイブレーク開始直前の攻撃時に代打および代走を用いた場合、守備につく選手を(申告用紙を提出する前に)球審に申告する。
- (5) タイブレーク開始前に両チームの主将は本塁上に集合し、大会役員立ち会いのもと、記入済みの「選択打順申告用紙」を球審に提出し、審判委員と両チーム主将が確認する。これ以降で、守備側の選手交代およびポジション変更、攻撃側の代打および代走は認められる。
- (6) 延長回に入り、降雨等でやむなく試合続行が不可能となった場合は引き分け再試合とする。
- (7) タイブレーク開始後、15回を終了し、決着していない場合はそのまま試合を続行する。但し、1人の投手が登板できるインニング数については、15インニング以内を限度とする。(例えば、13回2/3で降板した投手が再登板して投球できるのは、1回1/3である。但し、ダブルプレイなどによって、結果的にそれを越えた場合は認める)